

石川・本町一丁目遺跡

ほんまち

所在地 石川県金沢市本町一丁目

調査期間 一九九四年（平6）八月～一〇月

発掘機関 金沢市教育委員会

調査担当者 前田雪恵

遺跡の種類 集落跡・町屋跡

遺跡の年代 弥生時代終末期、一七世紀～一九世紀

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

調査地は金沢城の北西1kmにあたり、城を囲む外堀（西外縄構堀）の外側に接している。延宝年間（一六七三～八一）の城下絵図では町人地となつておおり、元

禄三年（一六九〇）以降、
一九四一年まで鍛冶片原町

と呼ばれていた地点である。

調査面積は約一六〇m²であ

る。調査区内には弥生時代
の溝・土坑と、江戸時代の
建物の礎石、井戸、十数基
の「ごみ穴」が存在していた。



（金沢）

木簡は「ごみ穴SK111」から出土した。これは粘土を採った跡を「」
み穴に転用したものと考えられる。調査区の角隅にあたつたため、
おそらく全体の半分ほどしか検出していないが、短軸二・四m長軸
三・六mの半楕円形を呈し、深さは一・二mを測る。木片・木製品
（くら・曲物・菜箸など）が多く出土した。

8 木簡の釈文・内容

(1) 「利承り候九郎様〔花カ〕
〔□□□〕

178×20×3 032

(2) 「通り札」

230×46×10 011

(1)は柾目材である。薄い板の上端を剣先のように鋭角に形作り、
その少し下を両側から小さく削り込んでいる。欠損箇所はない。

(2)は柾目材である。厚めの長方形板であつたと思われるが、上半
部の両側が斜めに欠損している。

9 関係文献

金沢市教育委員会『本町一丁目遺跡』

跡Ⅱ 鍛冶片原町

地点』（金沢市文化財紀要一三一、一九九七年）（前田雪恵）



(2)